

アリア「あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら」 K.621a の歌詞の意味するところと曲の構成 —— ゴットフリート・フォン・ジャカンへの“友情の証” ——

野口秀夫

1. はじめに

犬輔：アリア「私はお前を残していく」 K.255 やアリア「おお、娘よ、お前と別れる今」 K.513 など別れをテーマとしたアリアを調査してきましたが^{注1}、アリア「あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら」 K.621a も似たようなテーマですね。

鳥代：わたしには似て非なるテーマに思えるわ。K.621a は投獄や死別による別れではなさそうだし、相手も単なる恋人や娘ではなさそうよ。

教授：歌詞の内容だけでなく、誰が作詞したのか、誰が歌うための曲なのか、さらには本当にモーツァルトの作品なのかなど確認すべき点がいくつもある。諸君たちには従来の説を踏まえてさらに先に進めてもらいたい。

2. 歌詞は引用されたものか

鳥代：歌詞の引用元を探しましょう。「別れを告げます ti lascio」「いとし人 cara」「さようなら addio」のすべてが使われている作品は表1の通り K.621a を含め4件ありました。

表1 アリア「あなたに別れを告げます、いとし人よ、さようなら」各種歌詞

モーツァルト アリア「あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら」 K.621a	
Io ti lascio, oh cara, addio, vivi più felice e scordati di me. Strappa pur dal tuo bel core quell'affetto, quell'amore. Pensa, (oh Dio,) che a te non lice il ricordarsi di me.	あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら、 もっと幸せになって、私のことは忘れてください。 あなたの美しい心から その愛情を、その恋を取り去ってください。 考えて下さい、(おお神様、) 私のことを思い出すのは許されないことを。
メタスタージオ (?) / ヨハン・アードルフ・ハッセ 《エーツィオ》(1730) から ^{注2}	
Cara ti lascio. Addio Io più non ti vedrò Ah che a dolor si rio Resistere non può la mia costanza. Se così piace a te Morte non ha per me crudel sembianza.	いとし人よ、あなたに別れを告げます。さようなら もう会いません ああ、なんて苦しい痛みなんだろう 私の忍耐力では 持ちこたえられません。 あなたがそのようにお望みならば、 私にとって死は 残酷な姿ではありません。
アポストロ・ツェーノ (?) / ジェンナリオ・マンナ 《ルーチョ・ヴェロ》(1745) II-6 から ^{注3}	
Cara ti lascio addio tutto il tormento mio e il rimirarti in pena e sospirar per me Senza il tuo duol saria dolce la prigionia soave la catena che mi circonda il piè.	いとし人よ、あなたに別れを告げます、さようなら 私の苦しみのすべて あなたを見ながら苦しむこと 私のためにため息をつくことに、さようなら。 あなたの痛みがなければ 私の足を囲む 鎖は 甘いことでしょうに。
ヨハン・クリスティアーン・バッハ アリア WG 36b (ca.1785) ^{注4}	
Cara, ti lascio, addio mai più ti rivedrò Ah che a dolor si rio resistere non sa la mia costanza.	いとし人よ、あなたに別れを告げます、さようなら もう二度と会いません ああ、なんて苦しい痛みなんだろう 私の忍耐力では 持ちこたえられません。

犬輔：クリスティアーン・バッハの作品はハッセの《エーツィオ》(1730) の第1節とほとんど同じですから、その変形と見ていいでしょう。

鳥代：4つの例とも開始部分はよく似ていますが、K.621a だけは「思い出すのは許されない」と突き放しています。

教授：その部分こそがこの歌詞を調査する場合のキーポイントになる。

犬輔：でもそのような歌詞の先例には行き当たりません。既存の類似の歌詞を参考にしたとしても引用ではなく、むしろオリジナルなのではないでしょうか。

鳥代：オリジナルだとすれば何を歌っているのか、そして誰が歌ったのかを解明することで作詞・作曲の経緯が分かってくるかもしれないわ。そのために歌詞の意味するところを考えてみましょう。

3. 歌詞の解釈案

鳥代：K.621aの「私のことは忘れて」「もっと幸せに」「愛情・恋を取り去って」「私のことを思い出すのは許されない」という歌詞の背景には「親などが許さない恋」が考えられます。具体的には「親などが決めた相手と結婚することになり、相思相愛の二人が別れるにあたり、二人の何れかが歌う歌詞である」というものです。

教授：泉鏡花『婦系図』の戯曲一齣「湯島の境内」^{注5}における早瀬主税と芸者お蔭の別れを連想させる解釈だね。「月は晴れても心は暗闇だ」「切れるの別れるのって、そんな事は、芸者の時に云うものよ」という科白が有名だ。

犬輔：「世間が許さない恋」も考えられます。「相思相愛の既婚者と若者が別れることになり、どちらかというと後ろめたい既婚者側が歌う歌詞であるが、既婚者が溺愛してしまっていてれば若者側が歌う歌詞でもありうる」ということです。

教授：こちらは井上靖の『群舞』における田之村克也が人妻である方良りつ子への一方的な思慕の念を断ち切ろうとする話が参考になるうか^{注6}。

鳥代：ところで cara は女性名詞なのですべての歌詞が男性から女性に対するものですね。

教授：そのとおり。

犬輔：でもジョルダナーニの「カーロ・ミオ・ベン Caro mio ben」は「いとしい人」という意味ですが、caro という呼びかけで男声が女性に対して歌っています。この caro は cara の間違いということでしょうか。

教授：鳥代さんが以前説明したね^{注6-1}。その caro は名詞でなく形容詞だ。修飾している ben(e) が男性名詞なので男性形の caro になっている。男性名詞の bene は「いい男（ひと）」「いい女（ひと）」いずれをも意味するのだ。人間の性と文法上の性は必ずしも一致しない。

4. K.621a の伝承について

犬輔：K.621a の現存楽譜を表2に示します。記号は NMA 校訂報告^{注7}に準じます。

表2 K.621a の現存楽譜の調性と楽器編成

	現存楽譜	調	楽器編成
A	モーツァルテウム蔵 自筆譜 23-39 小節	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
B	ライブツィヒ B&H 社 一般音楽新聞 印刷総譜初版	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
C	モーツァルテウム蔵 筆写総譜	G	Sop, 2Fl, 2Fg, 2Hr, 2Vn, Va, Vc/Bs
D	アーロイス・フックスによる筆写総譜	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
E	アーロイス・フックスと付記のある 19 世紀の筆写総譜	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
F	ベルリール蔵 19 世紀のクラヴィーア・リダクション	G	Sop, Klavier
G	ブラーハ蔵 クラヴィーア・リダクション手書き譜	Es	Bs, Klavier
H	ブラーハ蔵 19 世紀の筆写総譜	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
I	メルク修道院蔵 手書きのパート譜 (1834)	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
J	マインツ蔵 1880 頃の筆写総譜	Es	Bs, 2Vn, Va, Vc/Bs
K	1802 (?) ジムロック社出版譜 (パート譜を伴うクラヴィーア・リダクション)	Es	Alt, 2Cl, 2Fg, 2Hr, 2Vn, Va, Vc/Bs, Klavier
L	1799 (?) ヴィーンのクラヴィーア・リダクション出版譜	Es	Bs, Klavier

鳥代：K.621a は 1798.10.3 と 10.10 の『一般音楽新聞 Allgemeinen Musikalische Zeitung』^{注8}に初めて登場し、その総譜（表2のB）の最初には「私たちはここで初めて、モーツァルトの短いアリアを作曲家の自筆譜から印刷して紹介します。モーツァルトは女性の友人と別れて数分でこの曲を書き上げました。この作品は、まったくシンプルに仕上げれば必ずその美しい効果を発揮するので、私たちが賞賛する必要はありません」と書かれています（図1）。

* Wir liefern hier eine kleine Arie von Mozart zum erstenmal aus des Verfassers eigenhändigem Manuscript abgedruckt. Er schrieb sie in wenig Minuten, als er Abschied von einer Freundin nahm. Die Komposition wird bey aller Simplicität ihre schöne Wirkung nicht verfehlen, und bedarf unsers Lobes nicht.

図1 K.621a 初版の注釈

犬輔：この記述に関連してカオッター・ヤーンは『モーツァルト』第4巻（1859）^{注9}で「モーツァルトはフランクフルトからマインツにも訪れ、そこでは感動的なラブストーリーが伝えられている。このことが彼にアリア Io ti lascio を作曲する機会を与えた」と根拠が薄弱的な噂を披歴していますが、「しかし、このアリアは明らかにモーツァルトではなく、ヴィーンのゴットフリート・フォン・ジャカンが作曲したものである」と続けています。

鳥代：ラブストーリーがモーツァルトに作曲の機会を与えたという噂は否定せず、モーツァルトが作曲者だということだけ否定しているのですか？ 矛盾しますね。

教授：作曲者についてはコンスタンツェが B&H 社宛てに 1799.5.25 付けで書いた手紙が参考になる。「貴社の音楽新聞を見ると、モーツァルトの自筆譜からアリア Io ti lascio, o cara,

addio を印刷したと信じていらっしゃるようですね。この自筆譜をお貸しいただけませんか？ 私はその筆写譜を持っていますが、彼の筆跡ではありません。私と数人の愛好家は、これは彼の作品ではないと考えています。私の筆写譜は、故ゴットフリート・フォン・ジャカンが持っていたもののようです。私の記憶の限りでは、ハッツフェルト伯爵夫人の出立 Abreise のために彼がこの曲を作曲もしました。ジャカンと私の夫の記譜は、基本的な違いにもかかわらず、いくつかの類似点があります。しかし、私の筆写譜のテキストはモーツァルトの手書きとはかなりかけ離れています」^{注10}。

鳥代：その手紙には追伸があるわね。「Io ti lascio, o cara, addio のヴァイオリン声部（複数）は、アリアを書いたジャカンの依頼で夫が作曲したものだ」と、シュタードラー師から聞きました。したがって、私はまったく正しかったのです」^{注11}。ジャカンが歌詞を書いてモーツァルトが伴奏を付けたというのですね。

教授：B&H 社は自筆譜（表 2 の A）^{注12}を基に出版譜を作成したものと思われる。自筆譜は 2 葉からなっていたが、現在後半の 1 葉しか残っていない。タイソンの透かしカタログによればペーパータイプ Wz95 で、モーツァルトがプラーハからヴィーンに帰ってきた 1787.11 以降に購入された五線紙であろうということである^{注13}。

鳥代：ジャカンとアリアについて交わしているこの頃のプラーハからの手紙が 2 通あります。一つは 1787.10.15 付けで「アリアに関しては、（口頭でお伝えします理由により）あなたにお送りすることは絶対に不可能です」。もう一つは 1787.11.4 付けで「12 日か 13 日にここを出発しようと考えていますが、したがって、あなたは私が戻ったらすぐに歌うためのアリアを受け取ります。NB 私たちの間で——」。

教授：シュテファン・クンツェは上記二通の手紙でモーツァルトが述べているアリアが K.621a ではないかと考えているが、自筆譜の存在と曲の様式上の観点からジャカンによる作曲への関与はなかったものと判断している^{注14}。

鳥代：クンツェは歌唱部と低音部を中心にジャカンの 13 曲のリート、1 曲のアリアと 1 曲のミサ曲を調査し、ジャカンのスタイルが K.621a の歌唱部と異なるというのですが、モーツァルトが歌唱部を訂正した上でオーケストレーションしている可能性もありますから、そうであればジャカンの歌唱部の案をもとにモーツァルトが作曲したということになるでしょう。

犬輔：手紙の曲が K.621a だとするとアリアはジャカンが歌うために作曲されたということになります。バスのための変ホ長調アリアで弦楽器の伴奏です。

鳥代：一方でモーツァルテウム蔵の筆写総譜（表 2 の C）はソプラノのためのト長調となっており、管楽器を含めたオーケストラ伴奏です。

教授：エッジによれば^{注15}、ト長調の筆写譜はモーツァルトの息子のフランツ・クサヴァーの遺産として伝わっており、その表紙には「Cavatina / Io ti lascio o cara addio / Del Sige Godofredo [nobile?] de Jacquino」と書かれていたが、名前のところが黒塗りでモーツァルトと訂正されている。おそらくアーロイス・フックスによるという（図 2）。



図 2 K.621a ト長調筆写譜の表題

犬輔：さらにエッジはこの筆写譜がヴィーンのモーツァルト写譜師 I によるものであり、この写譜師が 1800 以後には活躍していないことから、それ以前の写譜であるといえます。そしておそらくコンスタンツェが所有していたという筆写譜がこれではないかと推定していますね。

鳥代：エッジは仮説をもっと進めているわ。「このアリアについて私たちが現在知っているすべての事実と一致すると思われるシナリオを提示しよう。1787.10 と 1787.11 にジャカンに宛てたモーツァルトの手紙が確かに K. 621a について言及していると仮定しよう。これらの手紙におけるモーツァルトの口調は、ジャカンができるだけ早くアリアを手に入れることに不安を表明していたことを示唆しているようだ。これはなぜであろう？ コンスタンツェがマクシミリアン・シュタードラーから言われたように、実際にジャカンがメロディを書き、それに弦楽のパートを加えるようにモーツァルトに頼んだと仮定してみよう。もしジャカンがヴィーンを離れる人のためにメロディを書き、その出発が差し迫っていた

としたら、ジャカンとは明らかにこのアリアを間に合うように受け取りたいと切望していただろう。この人は誰だったであろうか？」そして続けます。「コンスタンツェは、ジャカンがハッツフェルト伯爵夫人のためにこのアリアを作曲したと主張した」。

犬輔：「マリーア・アンナ・ホルテンシア・ハッツフェルト伯爵夫人 Gräfin Maria Anna Hortensia Hatzfeld (1750–1813)、旧姓ジェロティーン伯爵夫人 née Gräfin Zierotin は、ケルン選帝侯の枢密顧問官および中將であったクレメンス・アウグスト・ヨハン・ネーポムク・ハッツフェルト伯爵 (1743–1794) の妻であった。ハッツフェルト伯爵夫人は、1784 の四旬節にトラットナーホーフで行われたモーツァルトの一連のアカデミーの予約会員の 1 人であった。また、1786.3 にアウエルスペルク王子の宮殿で行われた《イドメネーオ》のプライベート公演でエレットラの役を歌った」。

鳥代：ノットウルニ [K.346, K.436–439, K.549] のモーツァルトによる自筆譜には「これは、ジャカンが歌のパートを設定したノットウルニの伴奏である」とあります^{注 16}。一方、二つの筆写譜にはイタリア語とフランス語混交で“オルテンシア・ダズフェル伯爵夫人 Contessa Hortensia d'Hatzfeld” への献辞が記されています (図 3) ^{注 17}。



図 3 ノットウルニ 筆写譜の表題

エッジによれば「ノットウルニの最初の 5 曲は 1787 のものと考えられる。しかし、ケルン選帝侯宮廷職員の子として、彼女はすべての時間をヴィーンで過ごすことはほとんどなかっただろう (頻りにヴィーンを訪れたが、ボンに住んでいた)。これは、彼女が定期的に離れることを意味する。ノットウルニの献呈は、彼女がジャカンと彼の妹フランツィスカの周りの音楽サークルの一員であった可能性を示唆している。ゴットフリート (1787 にはまだ 20 歳だった) が伯爵夫人に熱を上げていたかもしれないことは想像に難くない」。

犬輔：「そこで、ジャカンが実際にメロディ (そしておそらくはテキストも) を書き、モーツァルトが《ドン・ジョヴァンニ》の初演のためにプラハに行かなければならなかったであろうその頃 (モーツァルトとコンスタンツェは 10 月 1 日にヴィーンを去り、11 月中旬頃に戻った)、そのオーケストレーションを依頼したと仮定してみよう。プラハ滞在中の彼の最優先事項は、オペラを完成させ、その制作を監督することであつたろう。この状況では、彼は反対のことを請け合ったにもかかわらず、友人のメロディをオーケストレーションする時間がなかったかもしれない。おそらくモーツァルトは約束を果たすために、ヴィーンに戻ってすぐに、帰国直後に購入した紙、つまり Wz 95 の透かしが入った紙を使って、すぐにオーケストレーションを書き上げたのであろう」。

鳥代：「このシナリオは情報源と手紙の証拠と完全に一致している。そしてそれはモーツァルトとジャカンの関係について私たちがほとんど分かっていないこととも一致するが、現存する手紙の日付と、ジャカンに関連する他の作品の最近の改訂に基づいて、これは主に 1787 を中心に展開しているようだ。このシナリオが既知の事実と一致しているからといって、それが真実であるというわけではない。私がここでこれを紹介するのは、単にこのアリアの信頼性と作者についての議論を再開するためである」。

犬輔：「では、K. 621a に管楽器を加えた移調編曲にはどのような背景があるのだろうか。この編曲はモーツァルトと何か関係があるのだろうか？ 情報源の証拠の中でこの仮説を除外するものは何もない。ハッツフェルト伯爵夫人はソプラノだったので、彼女のために編曲されたのかもしれない。モーツァルトテウムにある楽譜 (表 2 の C) が実際にコンスタンツェのコピーであり、それがおそらくヨハン・トレークの店からのものであるとしたら、トレークのオリジナルが何であったのかを検討する必要がある」。

鳥代：表 2 の C がコンスタンツェのコピーであるかも知れないという仮説には異論があるわ。何故ならコンスタンツェが「K.621a のヴァイオリン声部 (複数) は、夫が作曲したもの」と言っていることから、「ヴァイオリン声部 (複数)」は弦楽器全体を指し、管楽器には言及していません。それゆえバスが歌う変ホ長調の版のことであると思われます。

5. 歌詞の意味するところ

教授：ハッツフェルト伯爵夫人の誕生年は 1760 もあるが、洗礼の日付として 1757.10.9 が伝えられており、音楽教育については「ヴィーンの歌とピアノ演奏の最高の達人から」教えを受けたと言われている^{注18}。おそらく 1750 が正しいのだろう。1775 には娘が生まれた。また、彼女は 1785–1789? にボンでエレットラのアリア「心の中に感じるのはただ *Tutte nel cor vi sento*」K.366/4 を歌った記録が残っている^{注19}。

犬輔：そのハッツフェルト伯爵夫人に熱中したジャカンが、伯爵夫人との暫しの別れに際して歌うために、自分が歌詞を書きモーツァルトにオーケストレーションを依頼したとすれば、随分大胆な歌詞ですね。「あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら、もっと幸せになって、私のことは忘れてください。あなたの美しい心からその愛情を、その恋を取り去ってください。考えて下さい、(おお神様、) 私のことを思い出すのは許されないことを」。相思相愛を告白しています。

鳥代：しかも、ハッツフェルト伯爵夫人自身が歌うソプラノの編曲譜まで残っているとは驚いてしまいます。大胆と言うより厚かましいですね。

教授：バスのアリアは私的に演奏されるためのものとして弦楽器のみの伴奏になっていると思われるが、管楽器を含めたソプラノのアリアは公の演奏会を考慮したものようだ。したがって、そこにジャカンの影は見られない。属人性を取り払い、汎用性を持たせたアリアに昇華させ、歌手としての伯爵夫人が歌うということならどうだ。

鳥代：それだとなおさら伯爵夫人はジャカンと別れた後々までも歌うたびに、昔の道ならぬ恋人のことを思い出すことになり、ジャカンの書いた歌詞とは矛盾してきます。

犬輔：歌詞では相手が忘れるようにと歌っているだけで、歌う当時者が相手のことを忘れるかどうかについては何も言っていませんよ。ジャカンはそこまで狙っていたのではないかな。

鳥代：わたしとしてはどろどろとした印象が強いバスアリアとしてより、吹っ切れた感じで歌うことのできるソプラノアリアのほうが楽しめると思います。

6. ジャカンへの友情の証とは

犬輔：モーツァルトが『全自作品目録』に K.621a を載せていないのはジャカンとの共同作品だからなんですね。

鳥代：モーツァルト文献ではよくジャカンへの作品を“友情の作品”^{注20}とか“交友作品”^{注21}とか呼んでいるわね。

教授：Freundstück の訳として使われている言葉だが、作品や事物に限っての言葉ではなく、況や音楽作品に限っての言葉でもない。広い適用範囲を持った言葉であることに注意されたい。『グリムのドイツ語辞典』^{注22}にはこう書いてある（表 3）。

表 3 グリムのドイツ語辞典による Freundstück の項

<p>FREUNDSTÜCK <i>n.</i> <i>zuss. mit freund m.</i> <i>handlung, tat als freundschaftsbeweis.</i> <i>hauptbezeugung im 17. jh. vgl. freundesdienst m.</i> <i>selten:</i> 1522 got .. hat dir zû ein sunderen fründstück disen sun Isaac von diner lieben hußfrowen Sara geben Zwingli 1,362 E/F. 1561 ein freundsstück beweysen, thûn wie einem freund zûstadt Maaler <i>t. spr. 142a.</i> 1604 vom todt errettest meinen leib/ und gibst für mich dein eigne seel,/ das ist ein recht freund stück ohn fehl Spangenberg/F. dr. 1,94 LV. 1665 ein freund-stück zu bezeugen/ gab Cato dem Hortens die Martie zu eigen Lohenstein <i>röm.</i> <i>trauersp. 45 LV.</i> 1778 dieser ballet ist schon 4 mahl mit gröstem beyfall gegeben worden – ich will aber izt absoulement nichts machen, wenn ich nicht voraus weis was ich dafür bekomme, denn dies war nur ein freundstück für Noverre Mozart <i>br. 1,211 Sch.</i></p>	<p>フロイントシュテュック (中性) 友達 (男性) との合成語 友情の証としての行為[結果を含まない <i>Handlung</i>]、所為[結果を含む <i>Tut</i>]。17 世紀に主に使われた表現。友達サービス (男性) を参照せよ。稀語: 1522 神は…あなたの愛する妻サラからこの息子イサクを別の友情の証としての行為の結果としてあなたに与え…。Zwingli 1,362 E/F 1561 友情の証としての行為を証明するには、街の友人であるかのように振る舞いなさい。Maaler <i>t. spr. 142a.</i> 1604 あなたは私の体を死から救います/そして私のためにあなた自身の魂を与えてください、/それは間違いなく本当の友情の証としての行為です。Spangenberg/F. dr. 1,94 LV. 1665 友情の証としての行為を表現するため/ カトーはマーティを自分のものとしてホーテンズに渡した。Lohenstein <i>röm. trauersp. 45 LV.</i> 1778 このバレエ [K.299b] はすでに 4 回上演され、大喝采を受けました。でも、何が見返りになるか事前に分からないのであれば、現時点では絶対に何もしたくありません。これは単なるノヴェールのための友情の証としての行為だからです。Mozart 『手紙』シーダーマイヤー 1,211 頁</p>
--	---

犬輔：以前にも例がありましたが、モーツァルトの用例まで辞書に載ってるんですね。

鳥代：フロイントシュテュックが「友情の証としての行為」であれば、必ずしも産物を含めないのですね。その場合は「親切さ」と訳してもいいと思います。

犬輔：モーツァルトが父宛てに使うときには「親切さ」と訳さざるを得ない場合が多いです。

鳥代：父親だけでなく、目上の人に使う場合も「親切さ」「ご配慮」と訳すといいですね。

表 4 1777.12.27 マンハイムから父宛て

Ich erkenne daß es ein rechtes freundstück von ihnen ist, wenn sie mir die Ehre erweisen beÿ ihnen logiren zu dürfen, aber mir ist leid, daß ich dero so güttigs anerbieten leider nicht annehmen kann, denn sie werden mir es nicht übel nehmen, wenn ich ihnen sage, daß ich nicht gern meine mama ohne ursache von mir weg=lasse; ich weis wircklich keine ursache zu finden warum meine mama in diesem und ich in jenem theil der stadt wohnen sollte?	光栄にも一緒に泊まらせていただけるのであれば、それがあなたの本当の 親切さ であることは承知していますが、残念ながらそのような好意的な申し出はお受けできません。理由もなく母を私から遠ざけるのは嫌だということ。母が街のこの地域に住まなければならない理由が本当に見つからないのですが、私がその地域に住まなければならないのですか？
---	---

表 5 1778.7.3 パリからブリンガー神父宛て

Die ganze Krankheit kann ich Ihnen heute ohnmöglich schreiben – ich bin der Meynung, daß sie hat sterben müssen – Gott hat es so haben wollen. Ich bitte Sie unterdessen um Nichts, als um das Freundstück , daß Sie meinen armen Vater ganz sachte zu dieser traurigen Nachricht zubereiten – ich habe ihm mit der nämlichen Post geschrieben.	今日は病状のすべてについてあなたに書くことはできません。私は母が死ななければならなかったと考えています。神はそのように望んでいたのです。とにかく、私がお願いしたいのは、哀れな父にこの悲しい知らせにゆっくり心の準備をしてもらえただけの ご配慮 だけです。—— 私は同じ郵便で父にも手紙を書きました。
--	---

表 6 1778.7.18 パリから父宛て

weil Nun der Chfürst: sehr viell wie auch billig auf den Padre maestro hält, so glaube würde es sehr gut seÿn, wenn sie die güte haben wolltn, ihn schriftlich zu ersuchen neüerdings an Raff dessentwegen zu schreibn. es wurde mir doch immer Nutzen – und der gute Padre martini wird keinen anstand haben mir dieses freundstück nochmahl zu erweisen, wohlwissend, daß er mein glück dadurch Machen kann – den brief würde er hofentlich so einrichten daß er ihn allenfalls den Churfürst: zeigen kann.	いまや選帝侯はマエストロ師のことを非常に高く評価しているので、この件についてラーフ宛てに手紙を書くよう師に書面でお願いしていただければとても嬉しく思います。それはいつでも私にとって役に立つでしょう —— それに善良なマルティーニ師は、この 親切さ を再び私に示して下さることに何の躊躇もされないでしょう。そうすることで私を幸せにできることを十分にご存知だからです。—— できればラーフが必要に応じて手紙を選帝侯に見せられるように書いていただけるとありがたいのですが。
--	--

教授：Freundstück の使い方については理解できたと思う。

鳥代：広義を理解して初めて K.299b の例に倣って、K.621a はジャカンへの“友情の証の作品 Freundstück” だということが言えるわけですね。

7. 歌詞の詩行の種類

犬輔：歌詞の詩行の種類を見ておきましょう。

表 7 K.621a の歌詞の詩行の種類

行	詩行（／は音節の区切り、太字は強拍）	種類
1	Io / ti / la / scio, oh / ca / ra, ad / di / o,	8 音節詩行
2	vi / vi / più / fe / li / ce / e / scor / da / ti / di / me .	13 音節（8 音節詩行と同等の 4 つの強拍）
3	Strap / pa / pur / dal / tuo / bel / co / re	8 音節詩行
4	quell / af / fet / to, / quell / a / mo / re,	8 音節詩行
5	pen / sa, / che a / te / non / li / ce	7 音節詩行
6	il / ri / cor / dar / si / di / me .	8 音節詩行
5a	pen / sa, oh / Di / o, / che a / te / non / li / ce	9 音節（8 音節詩行と同等の 4 つの強拍）

教授：クリスティアーン・エッシュはこう述べている^{注 23}。「テキストは今や、[K.255 と比べて] より親密であるが、演劇的ではなく、セーリア風でない扱いを採用している。形式的には、編作者はまったく通例に反し 8 音節詩行の真っ只中に 12 音節詩行を挿入した」。そしてシュテファン・クンツェ^{注 24}がその第 2 詩行をそれぞれ 6 音節と 7 音節の二つの詩行に分割していることに対し、「12 音節詩行をこのように音節数の異なる二つの詩行で分割することに反対する理由はいくつかある。第 1 にモーツァルトの作曲において、クンツェによって分離された詩行には緊密な音楽的つながりがあること、第 2 にクンツェの構造によって作成された新第 2 詩行と新第 3 詩行は、6 音節と 7 音節であり、対応する韻は韻律的にあまりに異なり、そのような並列化は不可能であることである。これにより、3 行プラス 2 行プラス 2 行という少し変わった詩行の配置になってしまう。モーツァルトが問題の 2 行を 1 行としてみなしたという事実は、コーダにおいて——終わりを告げる最初の行の addio を除いて——それらが単独で音楽に設定されていることが示しているように思われる」と反対意見を述べている。

鳥代：第2詩行は12音節ではなく、13音節だと思います。それはともかく、イタリア詩に12音節以上の詩はありえないので^{注25}、何らかの対策をするのは当然のことと思いますが。

教授：だが、分割という対応では、誰が分割しても6音節詩行を含まざるを得ず、6音節詩行は頭に強拍を許さないため矛盾してしまう。別の解決策が必要だ。

犬輔：ぼくが提案するのは13音節のまま、1, 5, 8, 12音節を強拍とし、疑似8音節詩行（強弱）とみなすという方法です。

教授：その根拠はあるのかね。

犬輔：第5詩行も破格の7音節詩行ですが、おそらくモーツァルトによって繰り返し部分では、oh Dio が挿入され、9音節になっています（これを仮に第5a詩行と呼びましょう）。でも9音節だからと言っても9音節詩行（弱強弱）のリズムではありません。そうではなくて9音節の1, 3, 6, 8音節を強拍とすることで疑似8音節詩行（強弱）とみなすことができるなら、第2詩行と同様の扱いとなります。

教授：では犬輔君の説を念頭に曲を聴いてみることにしよう。

8. K.621a の楽曲構成

鳥代：では K.621a の楽曲構成を調べてみましょう。

表8 アリア「あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら」K.621a の構成

小節	歌詞	調性	形式
5-9	Io ti lascio, oh cara, addio, vivi più felice e scordati di me. あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら、もっと幸せになって、私のことは忘れてください。	Es	Adagio C
9-13	Strappa, strappa pur dal tuo bel core quell'affetto, quell'amore. 取り去ってください、取り去ってください、あなたの美しい心からその愛情を、その恋を。	B	
13-16	Pensa, che a te non lice il ricordarsi di me. 考えて下さい、私のことを思い出すのは許されないことを。	B	
16-20	Io ti lascio, oh cara, addio, vivi più felice e scordati di me. あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら、もっと幸せになって、私のことは忘れてください。	Es	
20-24	Strappa, strappa, strappa pur dal tuo bel core quell'affetto, quell'amore. 取り去ってください、取り去ってください、取り去ってください、あなたの美しい心からその愛情を、その恋を。	As→f →Es	
24-28	Pensa, oh Dio, che a te non lice il ricordarsi di me, il ricordarsi di me. 考えて下さい、おお、神様、私のことを思い出すのは許されないことを、私のことを思い出すのは許されないことを。	Es→es	
28-32	Io ti lascio, oh cara, addio, vivi più felice e scordati di me. あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら、もっと幸せになって、私のことは忘れてください。	Es	
32-35	vivi più felice e scordati di me, e scordati di me. もっと幸せになって、私のことは忘れてください、私のことは忘れてください。	Es	
35-37	ti lascio, addio, addio, addio. あなたに別れを告げます、さようなら、さようなら、さようなら。	Es	

犬輔：モーツァルト（ジャカンの案？）は5-9小節、16-20小節、28-32小節それぞれにおいて、第1詩行を2小節、第2詩行を2小節とし、対等の重さを持たせています。

鳥代：一方、第5詩行は1小節だけで構成されているけれど、oh Dio を追加した第5a詩行は2小節なのね。

教授：歌詞のテキストはかなり破格だが、音楽は諸君たちの分析の通り《強弱》のリズム（トロケオ trocheo）で統一されているね。歌詞のテキストと歌唱部の作曲のどこまでがジャカンのもので、どこからモーツァルトが修正・完成させたものか不明なるも二人の協作であることは間違いないようだ。

犬輔：20小節以降の「取り去ってください」でへ短調になるのは自然ですが、「私のことを思い出すのは許されないことを」で同主調の変ホ短調になるのは意表を突きます。ここはジャカンのアイデアでしょうか。

鳥代：わたしはジャカンがもっと個性を出して主張しているのかと想像していたけれど、個人色は消され、昇華されていたわ。

教授：ジャカンの表現としてはこれが精一杯なんだろう。

犬輔：音域も B-d'で、K.513 (B-es') と同様の狭い範囲にとどまっています。

鳥代：ト長調ソプラノ版（表2のC）に関しても表8の楽曲構成と同じです。音域は d'-fis''で、変ホ長調から長三度移調しただけですね。

教授：ソプラノにしては狭い音域だ。ハッツフェルト伯爵夫人が歌ったエレットラのアリア「心の中に感じるのはただ Tutte nel cor vi sento」の音域は c'-a''であったからね。

9. まとめ

犬輔：ぼくはこう考えます。モーツァルトの友人でオーストリア・ボヘミアの大使館に勤めていたゴットフリート・フォン・ジャカン（1763–92）が、ケルン選帝侯の枢密顧問官および中将であったクレメンス・アウグスト・ヨハン・ネーポムク・ハッツフェルト伯爵（1743–94）の妻であったハッツフェルト伯爵夫人（1750–1813）に熱を上げ、ノットウルニを捧げてきましたが、直接の告白はできませんでした。そこで暫しの別離をチャンスにとらえ、心のうちを反語的に吐露する感傷的な歌詞の歌を作りました。そしてそれを自ら堂々と歌うためにモーツァルトにバスアリアとしての曲の仕上げを依頼したのです。

鳥代：モーツァルトは《ドン・ジョヴァンニ》K.527 の上演で忙しかったプラーハからの手紙で、ヴィーンに戻ったらすぐに依頼されたアリアを渡せるだろうと言っています。アリア「あなたに別れを告げます、おおいとしい人よ、さようなら」K.621a の自筆譜の用紙はヴィーンに戻ってから購入したものであろうとされていますので、1787.11 以降に曲が仕上がったと考えられます。おそらく予定していた別れの日には間に合わなかったかも知れませんが、別れは何回もあったようですので、そのタイミングでの私演があったでしょう。そして、ハッツフェルト伯爵夫人も曲が気に入ったのでしょうか、ソプラノへの編曲の依頼があったものと思われます。ただし歌詞は男性から女性に対してのものでありますから個人的感情を歌うアリアにはなりえず、一般的なアリアとして歌えるという訳です。このソプラノのアリアは新全集に収録されているにもかかわらず、演奏例が見当たりません。感傷的な歌詞に管楽器が加わると、より効果的だと思われるのでは是非聴いてみたいものです。

教授：不倫の清算の歌ではなく、高校生の交換日記のような歌だったというところに落ち着いたね。エッシュが曲は「演劇的ではなく、セーリア風でない扱い」と言っていたが、バスのアリアもソプラノのアリアも、ジャカン家のサークルでの家庭音楽として歌われて、何ら問題がない内容だということも分かったであろう。諸君たちは深読みしすぎていたのだ。

鳥代：そういえば、ノットウルニは三重唱なので夫人だけでは歌えません。エッジの言うように夫人（ソプラノ）、妹のフランツィスカ（ソプラノ）とゴットフリート（バス）が家庭音楽として歌う曲として夫人に渡すことが献呈ということだったのでしょね。

教授：ハッツフェルト伯爵夫人の優れた音楽的才能と音楽への深い関心により、数名の作曲家が彼女に献呈しているという。ベートーヴェンもその一人でボン時代の 1790/91 にリギーニのアリエッタ「恋人よ来たれ Venni, Amore」による 24 の変奏曲 WoO 65 を献呈している。技術的に難しい曲ゆえ彼女が弾けたとすれば高い技術を持っていたことが証明される^{注26}。

犬輔：ところで、アルト声部への編曲版（表 2 の K）についての評価がまだでした。

教授：それについてはまたの機会に譲ることにしよう。

注 1：神戸モーツァルト研究会 第 305 例会 ∞、および神戸モーツァルト研究会 第 306 例会 ∞

注 2：Clori Archivio della cantata italiana, Aria da Ezio, Napoli, Teatro San Bartolomeo, 1730; sul manoscritto è presente una paginazione precedente 13-16. ∞

注 3：Lucio Vero. Drama per musica da rappresentarsi nel Real Teatro di S. Carlo nel dì 19 dicembre di quest'anno 1745 per solennizzare la nascita di Filippo V monarca delle Spagne. - In Napoli: per Cristoforo Ricciardo, [1745]. Sartori 1990 14513. ∞

注 4：Bach Digital, J. C. Bach (1735–1782), Ah, che gl' istessi numi & Cara, ti lascio, addio, Warb G 36b ∞

注 5：泉 鏡花 (1914). 湯島の境内 (婦系図一戯曲——一齣)、「鏡花全集」岩波書店、1942 所収 ∞

注 6：井上 靖 (1968). 『群舞』角川文庫 1968

注 6-1：神戸モーツァルト研究会 第 293 回例会 ∞

注 7：Küster (2003). NMA II/7/3-4: Arien, Szenen, Ensembles und Chöre mit Orchester · Band 3 und 4, KB ∞

注 8：Leipzig, Allgemeine musikalische Zeitung, 1798 n° 1 (c.1-20) ∞, n° 2 (c.21-39) ∞

注 9：Jahn, Otto (1859). W. A. Mozart von Otto Jahn. Erstdruck. Vierter Theil, S.556 ∞, Deiters, Hermann (1891) による Dritte Auflage, Zweiter Theil S.537 でも同様の記述となっている ∞

注 10：Mozart. Briefe und Aufzeichnungen (2005). Gesamtausgabe, dtv Verlagsgesellschaft mbH & Co., 2005, IV/239

注 11：Mozart. Briefe und Aufzeichnungen (2005). IV/241

注 12：Bibliotheca Mozartiana, Music manuscripts ∞

注 13：Tyson, Alan (1992). Wolfgang Amadeus Mozart, Wasserzeichen-Katalog, NMA X/33/2, Bärenreiter

注 14：Kunze, Stefan (1967). Die Arie KV 621a von W. A. Mozart und Emilian Gottfried von Jacquin. Satztechnik und Gattung in den Liedern Mozarts und seiner Zeit, in: MJB 1967, S. 205-227

注 15：Edge, Dexter (2001). Mozart's Viennese Copyists, Vol.1, A Dissertation Presented to the Faculty of Graduate School University of Southern California. ∞

注 16：神戸モーツァルト研究会 第 276 回例会 ∞

注 17：Mörner (1971). NMA III/9: Mehrstimmige Gesänge, Notenedition ∞

注 18：Hoffmann, Freia (2009/2023). Europäische Instrumentalistinnen des 18. und 19. Jahrhunderts ∞

注 19：Edge, Dexter (2018). "Countess Hatzfeld sings Elettra's "Tutte nel cor vi sento" in Bonn (1785–1789)." In: Mozart: New Documents, edited by Dexter Edge and David Black. First published 29 July 2018. ∞

注 20：海老澤 敏 (1984). 『モーツァルトの生涯』白水社、618 頁

注 21：磯山 雅 (2000). 『モーツァルト、二つの顔』講談社選書メチエ、114 頁

注 22：Deutsches Wörterbuch von Jacob Grimm und Wilhelm Grimm, Neubearbeitung (°DWB) ∞

注 23：Esch, Christian (1991). Michele Mortellari, Johann Christian Bach und Wolfgang Amadé Mozart Eine neu aufgefunden Fassung der Arie "Io ti lascio" KV 621a (= Anh. 245) und die verschollene Szene für Tenducci (Paris 1778) KV 315b (= Anh. 3), Mitteilungen der ISM 39, 1991, S.133 – 158. ∞

注 24：前掲 Kunze, Stefan (1967).

注 25：天野 恵/鈴木 信吾/森田 学 (2010). 『イタリアの詩歌——音楽的な詩、詩的な音楽』三修社 ∞

注 26：前掲 Edge, Dexter (2018).

(作成：2024 年 1 月 27 日、改訂：2024 年 2 月 4 日)